



JSPS Bonn Newsletter 2016年10月～12月 (ぼんぼん時計 No.54)



目次

ピックアップニュース p2

- ① 2016年のシーボルト賞授賞式が京都において開催
- ② ドイツ大学長会議 (HRK) が高等教育協定の恒常化を要求
- ③ エクセレンス戦略下でのエクセレンス・クラスターへ192件の申請が表明

その他のニュース p3

イベント活動報告 p13

- ① フンボルト財団主催ネットワークミーティングに参加
- ② ドルトムント工科大学キャリアフォーラムに参加

- ③ ハノーファー大学においてプロモーション活動を実施
- ④ 第4回ジュニアフォーラムを開催
- ⑤ ライツツィヒ大学においてプロモーション活動を実施
- ⑥ ドレスデン工科大学においてプロモーション活動を実施
- ⑦ ライツニッツ植物遺伝作物学研究所主催ミニシンポジウムに参加
- ⑧ 第22回日独科学技術協力合同委員会に出席

今後のイベント等 p16

センター長コラム p17

ドイツの大学紹介：ドレスデン工科大学 p18



ピックアップニュース

2016年のシーボルト賞授賞式が京都において開催

2016年のフンボルト財団（AvH）シーボルト賞の授賞式が京都において行われ、ガウク大統領から政治学者である河崎健氏に授与された。

河崎教授は上智大学の政治学の教授であり、ドイツ政党の政治的エリートを生み出す仕組みを検証した論文に始まり、ドイツの政治における動向と特徴を分析し、ドイツと日本の政党政治の比較研究を行ってきた。また、ボン大学やハイデルベルク大学、フンボルト大学ベルリン等でも長年研究を実施してきた。ドイツと日本の文化・社会の相互理解の向上に対する多大な貢献が認められての受賞である。

ガウク大統領は京都大学での授賞式において、「河崎教授の研究業績は、学術的な質が優れているだけではなく、政治的な関連性が特徴的である」と強調したうえで、「このような複合的プロセスを扱った学術研究は、権威主義的思考とポピュリストの動向が影響を及ぼしている世界において、さらに重要となるだろう」と述べた。

AvHのシュヴァルツ会長は「河崎教授は政党政治研究の発展に貢献するだけでなく、彼の研究成果は両国の政党政治の質向上に役立つことも期待されうる」と述べた。

フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト賞は、1978年にドイツ大統領が訪日したことを機に設立された賞で、連邦外務省の助成を受けている。受賞者にはAvHより5万ユーロの賞金が授与される。これまで、法学者や数学者、ドイツに関する研究者、物理学者、経済学者等幅広い分野の研究者がシーボルト賞を受賞している。また、日本には約1,700人のAvHフェロー経験者等が在住している。

AvH : <https://www.humboldt-foundation.de/web/pressemitteilung-2016-30.html> (17 Nov. 2016)

ドイツ大学長会議（HRK）が高等教育協定の恒常化を要求

連邦統計局より、今学期の学生数が発表された。新しく入学した学生数は各州文部大臣会議（KMK）の予想を超えて505,910人と50万人を上回り、合計で280万人に達した。この報告を受けてドイツ大学長会議（HRK）は、現在の高等教育協定が終了したあとの教育のための資金調達について改善を要求した。

HRKのヒップラー会長は次のように述べた。「この数字は、できる限り多くの若者に対して大学での教育の機会を提供するという継続的な取組みを証明したものである。近年、高等教育協定は大学が必要なキャパシティを設けることができる力量に、きわめて重要な貢献をしてきた。このような高いレベルでの数値の安定化は、教育をとりまく長期間にわたる変化に取り組んできたことを示している。期限付きのプログラムでは、きちんと対応することはできない。連邦・州政府は、教育の機会に対する多大な要求は一時的な現象ではないことを認識し、恒常的な基盤を備えた適切な投資について考えなければならない。

我々は、高等教育協定が期限付きであったために現れた問題が、大学においてだんだん強まってきていると考えている。教育にかかるコストは割合が増加しているため、一般財源ではなく期限付きの助成プログラムから負担されている。その結果、ますます多くなる教育義務は、有期雇用の教員によって担われているのである。これは教員にとっても大学にとっても長く続けられる状況ではない」

ヒップラー会長は、2020年の高等教育協定の終了後は恒常的な助成によって解決されることを要求している。ヒップラー会長は続けて、「連邦・州政府は、高等教育協定によって提供されたレベルの教育のための助成が、どのようにして2020年の終了後も保証されるか解決のために今こそ対策を講じなければならない。KMKは計画のための適切な基盤を持つために、2014年の予測をできる限り早く更新すべきだろう」と述べた。

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/student-numbers-at-record-high-hrk-calls-for-consolidation-of-higher-education-pact-4065/> (25 Nov. 2016)



ピックアップニュース

エクセレンス戦略下でのエクセレンス・クラスターへ 192 件の申請が表明

大学におけるトップレベルの研究を支援するエクセレンス・イニシアティブの後継プログラムであるエクセレンス戦略について、大学の関心と今後の競争過程の規模に関する最初の指標が発表された。エクセレンス・クラスターの第一申請書を提出するという意向表明書は、2016年12月1日を締切として、合計192通DFGに提出された。DFGは連邦・州政府の合意に従ってエクセレンス・クラスターの審査を実施する予定である。

192通の意向表明書のうち、7通の3つの研究所によるグループを含む44通は大学コンソーシアムによって共同提出されたものである。3つの研究所によるグループは、2016年9月末に公開された公募により許可されたグループの上限である。

意向表明書の提出の後、大学は2017年4月3日までに、DFGに対してエクセレンス・クラスターの第一申請書を提出する。申請後は国際的な審査委員らによって評価され、その後2017年9月末に主に国外からの39人の研究者らで構成される専門家委員会によって第二段審査へ進む申請書が決定される。最終的な結果は2018年9月に、エクセレンスコミッションによって決定される見込みである。支援は2019年1月開始予定。

エクセレンス・クラスターの採択数を満たした大学のみが、ドイツ学術審議会(WR)によって実施されるエクセレンス大学に申請書を提出する資格を得る。エクセレンス大学への申請締切は2018年12月で、2019年に最終結果が決定される。

DFG : http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2016/press_release_no_56/index.html (9 Dec. 2016)

その他のニュース

ドイツ大学長会議 (HRK) がインターンシップに関する報告書を発表

本日、ドイツ大学長会議 (HRK) は、在学中に長期のインターンシップの経験を積んだからといって必ずしも職業能力の高い卒業生を労働市場へ輩出することに直結していないとする調査結果を発表した。

ほとんどの学士課程あるいは修士課程では学外でのインターンシップを必修としているが、多くの大学は理論と実践を組み合わせることや体系的な統合に苦労している。「多くの場合、インターンシップは単に課程の添え物にすぎず、貴重な勉学の機会を失っている。インターンシップを課程へ体系的に統合させることで、学修意欲を高め、学生を成功へと導くことができるだろう」と教育学研究者であるシュバルト教授は述べている。

報告書が提言するのは、インターンシップにさらに価値が与えられ、優れた教育の特徴として認識されるようにすることである。そうすれば、学生は実務を経験するとともに学術的な知識と最新の研究成果で職場に貢献でき、雇用者は専門家にアクセスすることができ、そして大学も、労働市場に備えて学術的に質の高い学生を訓練し、彼らにインターンシップの機会を与えることで、研究と教育への刺激を得ることができる。このように、優

れたインターンシップはすべてに対して利益をもたらすものである、と述べられている。

HRKのヒップラー会長は、「質の基準は、大学と学生、雇用者と労働組合等のすべての関係者との間における話し合いによって決定されるべきである。理論を実践へ活用するには、インターンシップと現実社会に関するその他が体系的に学習課程へ組み込まれている必要がある。さらに、企業もやりがいのある仕事を与えるような十分に質の高いインターンシップを提供しなければならない」と述べている。

「インターンシップにおける質の基準—現状と提言—」では、専門家からの提言として、インターンシップの重要性の認識、インターンシップをカリキュラムに統合し適切に管理すること、インターンシップ終了後の証明と評価に関するルール策定等の12項目が挙げられている。

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/student-work-placements-report-calls-for-better-support-and-integration-4025/> (27 Sep. 2016)



その他のニュース

エクセレンス戦略下におけるエクセレンス・クラスターの公募が開始

エクセレンス戦略の開始に際し、2016年9月28日、ドイツ研究振興協会（DFG）とドイツ学術審議会（WR）はエクセレンス・クラスターおよびエクセレンス大学の公募を発表した。当該公募は今年の6月中旬に連邦内閣閣僚および州政府首脳により決議されており、エクセレンス・イニシアティブの後継プログラムにあたるものである。エクセレンス・クラスターはDFGが、エクセレンス大学はWRがそれぞれ公募を担当する。

選考は二段階に分けて行われる。第一段階は、2017年4月3日を締切としたエクセレンス・クラスターへの一次申請である。一次申請は国際的な研究者から成る審査員によって評価され、2017年9月下旬に専門家委員会が選考結果を発表する。選考された大学は最終選考として本申請を行い、2018年9月に結果が発表される予定である。その後、第二段階としてエクセレンス・クラスターの採択数を満たした大学のみが2018年12月にエクセレンス大学の募集に応募することができる。エクセレンス大学の審査結果は、2019年7月に発表予定である。

DFG :
http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilung/en/2016/pressemitteilung_nr_44/index.html (28 Sep. 2016)

エラスムス・プラスが迎える新しい挑戦

エラスムス・プラス（Erasmus+）の年次会において、欧州における難民問題やイギリスのEU離脱によって引き起こされる問題、西ヨーロッパの大学と東ヨーロッパの大学間の連携、エラスムス奨学生の国際的キャリア助成が主なテーマとなり、各関係機関の代表者は、エラスムス・プラスが欧州人としてのアイデンティティ形成にさらに役立つためにはどうすればよいか、また、欧州の連帯を強化するのにどうすればより貢献できるのか、といったことについて議論した。そのほかには、現行のエラスムス・プラスプログラムの進展も議論された。

DAAD :
<https://www.daad.de/presse/pressemitteilungen/2016/de/48971-erasmus-neue-herausforderungen->

[fuer-ein-bewaehrtes-programm/](#) (29 Sep. 2016)

監査プロジェクト「大学の国際化」が7年間の助成期間を終える

連邦教育研究省（BMBF）の支援を受けたドイツ大学長会議（HRK）による監査「大学の国際化」プロジェクトは7年以上にわたり、80の大学がこの監査を完了した。ヴァンカ連邦教育研究相は、「研究の場としてのドイツのグローバルな競争性を確保するために、大学の国際化は、根本的に重要なものである。監査を通して、大学がよりよく国際化する方法に関する重要な見識を収集することができ、また、監査もドイツの高等教育全体に対して前向きな影響力を発揮できた」と述べた。

当該監査プロジェクトは、参加した研究機関の国際化戦略を発展させ、国際的な知名度向上のための支援を行った。その際、大学全体としての国際化を促進させるため、機関の側での内省とともに、機関と外部コンサルタントを結びつけることも行った。また、数多くのネットワークイベントや情報交換の場、良い事例の体系的な普及を通じて、大学間での相互交流を推進した。

BMBFからの助成終了後も、大学の持続的な需要を鑑み、HRKが監査またはコンパクト監査を提供する予定である。再監査「大学の国際化」は、国際化対策の実施プロセスに付随するプログラムとして、次回公募申請を控え、年末に向けて再度プロモーションされる見込みである。

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/hrk-audit-internationalisation-of-universities-positive-results-for-the-german-higher-education-s/> (6 Oct. 2016)

欧州研究領域の未来と課題

10月10日、総決算会議がベルリンで行われた。この会議ではヴァンカ連邦教育研究相およびモエダス欧州委員（研究・科学・イノベーション担当）が開会を宣し、連邦教育研究省（BMBF）はヨーロッパの学術的協力の未来に関する議論を開始した。

欧州研究領域は、学術交流や協調、共同研究を楽に進めることを目的として2009年にリスボン条約で最重要目標として定められ、そして広範囲にわたって実現した



その他のニュース

とみなされている。しかし、近年、学術におけるデジタル化や移民、政治的変革、激化するグローバル世界での競争といった新たな挑戦の前に立っている。

当該会議には 600 人以上の国際的な専門家が出席し、議論を交わした。また、欧州研究領域の未来および研究とイノベーションのための世界最大規模の支援プログラムである Horizon2020 の後継プログラムの方向付けに向けたドイツの地位の基盤となることが求められるだろう。

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/in-der-forschung-waechst-europa-weiter-zusammen-3416.html>
(10 Oct. 2016)

連邦教育研究省 (BMBF) はデジタル教育を推進

ドイツの学校全域がデジタル教育を成立させるために、連邦教育研究省 (BMBF) は各州とともに「デジタル協定 #D」を提案した。BMBF の戦略は、幼児教育から学校、職業教育や大学を経て継続教育までといったすべての教育範囲に対してデジタル化する機会と活動領域を明示したものである。当該プログラムにおいて、BMBF は 5 年間に 50 億ユーロで約 4 万校のドイツの小学校や中学、高校、職業学校にブロードバンド接続や無線 LAN 等のデジタル設備を提供することが掲げられている。これに対して州側は、適した教育計画、教員の育成と研修ならびに一定の技術的水準を実現させるよう実行する義務を負う。

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/sprung-nach-vorn-in-der-digitalen-bildung-3430.html> (12 Oct. 2016)

連邦教育研究相が本日ドイツ学術財団連盟により公表された「高等教育バロメーター」についてコメント

ヴァンカ連邦教育研究相のコメント：

「高等教育バロメーター」の結果は、我々の戦略的な取り組み全体が正しいことを証明している。我々は大学の最先端研究を支援し、若手研究者に対して確実なキャリアの展望を用意し、また、経済界や産業界へのアイデアや知識、技術の研究に基づいた移転を強化している。同

様に、大学もこれらのテーマを支援の重点としてみなしている。

「高等教育バロメーター」中では「先端研究への助成と同時に地域のイノベーション拠点の中心としての大学の役割を強化すること」という期待が述べられた。しかし、エクセレンス戦略や若手研究者のためのテニュアトラックプログラム、イノベーション大学の三つの取り決めは、まさに様々な大学の多様な要求に答えたものである。このことは、政治はこれらのことを以前から重要視してきたということを示している。

喜ばしいのは、エクセレンス・イニシアティブが高等教育システム全体にとって効果的であると評価されていることである。大学教員のうち 3/4 は当該プログラムがこれまで高等教育システム全体へいい刺激を与えていることを認めている。また、助成を受けていない大学においても、その 82% から賛同を得ている。

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/zum-heute-vom-stifterverband-fuer-die-deutsche-wissenschaft-veroeffentlichen-hochschul-3436.html> (13 Oct. 2016)

ドイツ大学長会議 (HRK) がアクレディテーション (質保証) の早期合意について各州文部大臣会議 (KMK) へ要求

ドイツ大学長会議 (HRK) のヒップラー会長は、各州文部大臣会議 (KMK) に対し、本日、大学の質保証の枠組みに関する法案を早期に合意するよう呼びかけた。

また、「KMK が結論を 12 月まで先延ばしにしたことについて、大学は非常に懸念している。HRK の要求のとおり、州間の協定を結ぶことによって問題の解決方法がそれぞれ分離してしまうことを避け、アクレディテーションの過程において学術が大きな役割を果たすべきであるという連邦憲法裁判所の要請を考慮しようとしたように、KMK は正しい方向に向かっていて、これらの措置は必要なものであり、できる限り早く立ち戻らなければならない」と HRK のヒップラー会長は述べている。

HRK は年末までに質保証システムを再構築するためのさらなる具体的な提案を提示することを計画している。HRK のヒップラー会長は、KMK は法的枠組みを確立する必要があり、一方大学側は自らの経験に基づいて設計過程を補助する必要がある。そうすることで、学術に基づいた未来志向の制度設計となるだろう」と加えた。



その他のニュース

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/hrk-calls-for-prompt-agreement-between-ministers-of-education-and-cultural-affairs-on-accreditation/>
(13 Oct. 2016)

ドイツ大学長会議（HRK）は専門大学のための若手研究者獲得・育成に関する連邦－州プログラムを要求

先週ベルリンで開催されたドイツ大学長会議（HRK）の評議会にて、「専門大学で教授を採用する際の連邦・州政府の長期プログラムの基本原則」が採択された。当該原則では、長期的展望に基づいてプログラムを設計することや、各大学がそれぞれのキャリア開発を具体化するための支援策へ応募できる機会を設けること、ビジネス界とのコラボレーションや新たなキャリアパスの開発、特別な教授制度といった形式で支援されうること、キャリア初期にある博士課程学生に対し専門大学への就職も視野に入れることを促すため全国的な情報キャンペーンの可能性などが述べられている。

現在、専門大学においては教授の採用要件を満たす若手研究者が不足している。これらのポジションは博士号の資格だけでなく、最低 3 年間学術界以外において関連した業務の経験を有することが求められている。

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/hrk-calls-for-federalstate-government-programme-for-universities-of-applied-sciences-to-recruit-and/>
(18 Oct. 2016)

大学等における難民の受け入れに関する指針が発表

大学や学生支援機関である学生互助会で働く人々を対象とした指針「大学へのアクセスと難民の学術研究」が、連邦移民難民庁（BAMF）と各州文部大臣会議（KMK）、ドイツ学術交流会（DAAD）、ドイツ大学生支援協会（DSW）、ドイツ大学長会議（HRK）から共同発表された。

ドイツで学びたいと考える難民の数は増えており、これは大学と学生互助会にとって新たなチャレンジとなるだろう。たとえば、どのような法律が大学へ入学したい

難民に適用できるのか、難民が入学するに際してどのような側面が考慮されなければならないか、研究に際してどのファンドが利用可能か、トラウマを抱えた難民に対する支援はあるのか、といった問題が想定される。これらに対する回答が、今回発表された当該指針に集約されている。

指針は、初期のガイダンスコースから高度な学術研究にいたるまで、高等教育におけるすべてのステージを考慮するもので、高等教育や労働と社会の法に関してあらゆる有意義な規定について説明し、関連情報も提供されている。したがって、当該指針は高等教育機関で勉学を開始したい、あるいは続けたいと考える難民をカウンセリングする学生事務にとって重要なものになるだろう。難民の統合はたしかに学生支援に関わる機関にとってチャレンジであるが、高等教育は難民にとって求人市場参入への足がかりとなり、一方でドイツは高度に教育された卒業生から常に利益を得ることができるのである。

DAAD : <https://www.daad.de/presse/pressemitteilungen/2016/en/49524-refugees-at-university-practice-oriented-guide/>
(24 Oct. 2016)

中東・トルコ地域のシリア難民のための高等教育支援

ドイツ学術交流会（DAAD）と国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）は、北アフリカ・中東諸国（MENA）およびトルコにおける高等教育を通して、シリアの難民のための新しいビジョンをかたちづくる覚書にサインした。DAAD および UNHCR 等は、DAAD の HOPES プロジェクトと UNHCR の DAFI プログラムがより高い影響力を発揮できるよう、協調して働こう。

HOPES プロジェクトは、EU によって支援され、レバノン、ヨルダン、北イラク、エジプトおよびトルコにおいて大学入学資格のあるシリア難民を対象とし、彼らに高等教育を受けさせまたは修了させるためのものである。2019 年末のプロジェクト期間中に、400 から 600 人の奨学生が採択される予定である。

DAFI プログラム（アルバート・アインシュタイン・ドイツ学術難民イニシアティブ）は 1992 年に始まり、UNHCR はこれまで 8,000 人以上の学生を支援してきた。DAFI プログラムの主たる資金提供元であるドイツ外務省は、シリアにおける内戦をふまえて、シリア難民

その他のニュース

に対する DAFI 奨学金を追加で支援することを発表した。

ドイツ外務省のフランク＝ヴァルター大臣は「2016年、ドイツは2,500人分の新しい DAFI 奨学金を、主にシリア、またアフガニスタンとアフリカの難民に対して支援している、難民のための高等教育に対する責任とともに、ドイツは、彼ら自身の手に彼らの未来をつかみ取らせ、また彼らのコミュニティの福祉に貢献するような、若い難民のためのビジョンを創造する」と述べた。

UNHCR が既存の枠組みを使用できるようになり、また DAAD が秋学期ですぐに勉学を開始または継続できるようにするなど、HOPES と DAFI の間の調整は、6月に合意した覚書のおかげでかなり効果のあるものとなった。

DAAD と UNHCR は、この奨学プログラムに関する共同キャンペーンを開始した。対象者はかなりの数が見込まれ、最多の申請者があったのはトルコである。あわせて13,500人が DAFI および HOPES、地域の機関による1,500人分の奨学金に応募した。ヨルダン、レバノン、エジプトならびに北イラクにおいては審査過程及び採択手続きが進んでおり、HOPES と DAFI の共同採択委員会において採択結果が決定される予定である。

DAAD :

<https://www.daad.de/presse/pressemitteilungen/2016/en/49525-daad-eu-and-unhcr-provide-higher-education-scholarships-for-syrian-refugees-in-turkey-and-the-middle-east/> (24 Oct. 2016)

排気ガス再利用研究プロジェクト

「Carbon2Chem」がスタート

ラヘル連邦教育研究省 (BMBF) 政務次官は、ノルトライン＝ヴェストファーレン州クラフト首相、ティッセンクルップ株式会社ヒージンガー理事長およびティッセンクルップ・スチール・ヨーロッパ社ゴース理事長と共同で、BMBF のイニシアティブ「Carbon2Chem」による専用施設の創設を祝した。

研究プロジェクト「Carbon2Chem」は、工業会社 8 社がマックス・プランク研究所、フラウンホーファー協会およびその他の学術パートナーと共同で、製錬所から排出されるガスを動力用燃料やプラスチック、肥料等へ再利用するために、世界中で使用可能なソリューション

を開発するものである。この際必要とされる水素は、再生可能エネルギーの余剰分から生産される。

「Carbon2Chem」は、ドイツの鉄鋼業分野が年間放出する 2,000 万トンの CO₂ を産業使用することを目標としている。これは、ドイツの工業プロセス、または加工業から放出される年間の CO₂ の 10% に相当する。BMBF は今後 4 年間で専用施設の設備や運営に約 1,000 万ユーロ投資する予定で、完成は 2018 年とされている。また「Carbon2Chem」は鉄鋼業、発電、化学工業等の分野を越えたネットワークの構築を視野にしている。これらの産業分野は、ノルトライン＝ヴェストファーレン州にとって重要であり、18 万人以上が従事している。

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/huettengase-zu-duenger-3517.html> (2 Nov. 2016)

ドイツ大学長会議 (HRK) が医学分野の博士課程の質保証について提言

本日、ドイツ大学長会議 (HRK) の総会は、医学分野の特徴に留意しつつ、博士論文について基本的な質基準を伴ったコンプライアンスを確保することを意図し、医学分野の博士号について重要なパラメーターを明確にした。この提言は若手研究者支援に関する近年の HRK の集中的な取組みの一環であり、博士課程における質保証に対する提言を引き継いだものである。

HRK は、他の分野のように医学分野においても学位論文が学士課程の修了後に書かれるべきであると提言している。さらに、博士課程のさらなる体系化に賛同を示した。HRK の医学研究・保健科学担当のヴェーバー理事は「さらなる指導強化と学際的な技能と手法を教授することは、質保証された体系的な博士課程のトレーニングに必須である」と述べている。ヒップラー会長は、「我々は、医学分野の標準的な課程が長いものであり、その後には医師としての専門的な教育をとまなうという特徴をよく承知している。より質の高い若手研究者の育成をはかりながら方法を模索する」と加えた。

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/doctoral-degrees-in-medicine-hrk-recommends-improved-quality-assurance-4061/> (8 Nov. 2016)



その他のニュース

ドイツ大学長会議（HRK）がアクレディテーション（質保証）再編に対して提言

ドイツ大学長会議（HRK）は、アクレディテーション（質保証）システムとプロセスの制度設計に関する詳細な提案を発表した。

HRKは、アクレディテーションは質の保証と監査に沿った説明責任のために、学術指向のプロセスで再構築されるべきであり、欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン（ESG）の規定にも従うべきであると考えている。また、アクレディテーションの過程において、諮問機関のサービスは提供されるべきだが、実際に関与するかどうかは強制されない。すべての過程に対する最終決定は、アクレディテーション審議会においてなされるべきなのである。

HRKのヒップラー会長は「ドイツ連邦憲法裁判所は、アクレディテーションの再編は、学術的な特性に沿って進められなければならない、ということを明確に示している。大学が自身の提供するコースに対してより大きな責任を負うことができるべきであり、また、アクレディテーションプロセスの実施に以前より関わるができるようにすべきである」と述べた。また、「我々が建設的な提案をした今、我々は各州文部大臣会議（KMK）が改革を実施するための法的枠組みをすみやかに確立し、既に10月に旗振りが行われていた、連邦各州間での条約の締結が早急に為されることを期待している」と加えた。

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/hrk-proposals-for-reorganisation-of-accreditation-4056/> (8 Nov. 2016)

「若手研究者協定」の持続的な発展のために

ドイツ学術機関連盟は、学術後継者支援プログラム、いわゆる若手研究者協定によって、ドイツにおける若手研究者のおかれている状況を改善し、ドイツの研究制度を国際的な競争の中で強めていきたいとする連邦と州の姿勢を歓迎している。ドイツのテニュアトラック教授職が国内外の若手研究者にとって現実的で長期的な展望のある魅力的なキャリアパスとして定着するため、そして大学の将来性を高めるために、科学的なモニタリングに基づき、プログラムの長期的な効果およびできる限りよい形で既存の成果ある支援策を組み合わせることの二つ

を確保することが若手研究者協定の発展に際して重要なのである。このモニタリングについては、適宜依頼し、必要な財源が確保されなければならない。

若手研究者協定に必要なのは、若手研究者をキャリア開発で積極的に支援し、幅広く多様なキャリアルートを開発し、研究制度にしっかりと根付かせるさらなる方策である。多くの大学や研究機関では、教授職を増やすことに加えて、新しい生涯展望を開くような（たとえば研究インフラの構築、経営、近代化といった）ポジションが必要である。

・教授職総数への長期効果

プログラム成功に不可欠なのは、州が約束した教授職総数の増加を保証することである。そうでなければ、テニュアトラック・ポジションに対して資金を提供できる期間は限られているため、多くの大学にしてみれば、若手研究者協定の助成終了後、既存の教授席が空いているときのみ対応することになってしまうだろう。もし州が約束した持続的な資金提供を履行できなければ、テニュアトラック教授職は、単に教授任命の前倒しとして利用されるだけになり、教授職総数は長期的に増加しないこととなる。

ドイツ学術機関連盟は、長期的な財源措置によって計画的に教授職総数の増加を確保し、目標達成が可能であることを示すよう州に訴えている。

・次世代研究者のキャリアチャンスへの影響

若手研究者協定は、後の研究者の負担にはならない。若手研究者協定の意図する長期効果に反し教授職総数が増加しないならば、プログラム実施後6-8年で任命のボトルネックが生じ、次世代研究者の負担になる。

ドイツ学術機関連盟は、特に大学の将来性を維持するために、連邦と州に対して研究労働市場のこのようなマイナス動向可能性を阻止するよう求めている。

・テニュアトラック教授職の財政的条件

1,000のテニュアトラック教授職は、予定された財源では学問分野の幅を越えた十分な条件が整わない危険性がある。若手研究者協定のため連邦が用意している資金では、テニュアトラック教授職の条件が現在の平均的教授職以下になってしまう。

ドイツ学術機関連盟は、国内外の厳しい競争に鑑みて、本質的な研究活動に対する財政的な基盤がすべ



その他のニュース

ての学問分野を越えて保障されないならば、特定の学問分野の優秀な候補者が、テニュアトラック教授職に応募してこないリスクの高さを指摘している。州は、大学が認可されたテニュアトラック教授職に対し、学問分野に合った条件を提供できるような財政的状况を用意しなければならない。

・テニュアトラックキャリアの発展に関する大学外研究機関の協力

非常に歓迎すべきは、大学の人材開発戦略が申請時に考慮されることである。その際には、大学外研究機関の若い研究者にとって、多様な資格取得可能性が広範囲にわたって考慮されるべきである。最善の策は、当該地域の全研究労働市場を考慮し、機関間の異動を前提とし、大学とその他の研究機関の強力な協力を促すような総合コンセプトでもって、若手研究者の能力とニーズに応じた支援をすることである。若手研究者の支援部門（例えば、大学院やダブルアポイントメント）での大学と大学外研究機関間の既存の密接なネットワークは、異なる機関間で幅広い能力を仲介するのに重要であることを示している。

ドイツ学術機関連盟は、大学と大学外研究機関が協力する人材開発戦略を通じて若手研究者の将来のチャンスを一時的に改善する全ての努力を支援する。そのためには、学術リソースの効率的投入の意味で、学術機関外のキャリアへの変更、場合によっては専門大学教授職への移行等魅力的な可能性を考慮することが必要である。

・他の資格ルート、他の支援手段との相互作用

若手研究者協定は、今までドイツであまり利用されていなかったテニュアトラック方式を教授職へのルートとして根付かせるという目的を持っている。すでに定着し定評のある資格ルートをとった人々にマイナスとなつてはならない。若手研究者が所属する機関が多様であることを鑑みて、若手研究者協定のモニタリングの際には、すでに成果を収めている支援プログラム（例えば、ERC Starting Grants、ERC Consolidator Grants、エミー・ネーター・プログラム、ソフィア・コバレフスカヤ賞、大学外研究機関の有期グループリーダー・ポジション）が、若手研究者協定へプラスの影響を及ぼしているかどうかには注意しなければならない。これらのプログラムは、

非常に高い資格要件と優秀さを要求しているため、高く評価されている。手続き上の条件を整える際および若手研究者協定実施の際に確保すべきは、上記の支援プログラムに比して質基準が下がらないこと、明確に定義された評価基準によって一貫した高水準を達成することに、若手研究者協定が貢献することである。これはエクセレンス・イニシアティブや上記の支援プログラムの枠内ですでに教授職を目指し資格を得ようとしている若手研究者が、この新しいプログラムに参加すべきとされていることにも表れている。

ドイツ学術機関連盟は、あらゆる研究者の機会均等のため尽力する。つまり、終身雇用への任命についても、テニュアトラック教授職への参加についてもある。終身雇用の評価基準は、優れた研究と教育の国際的な基準を常に満たすべきである。評価基準は透明で、原則として同僚としてのリクルート決定は拘束力が付加されるべきである。

AvH : <https://www.humboldt-foundation.de/web/pressemitteilung-2016-29.html>
(9 Nov. 2016)

ドイツ連邦教育研究省（BMBF）が難民研究を扱う人文学および社会科学の支援を強化

ドイツ連邦教育研究省（BMBF）は、避難や移住、統合をテーマとする分野、特に人文学または社会科学研究を強化する意向である。直近で開始（予定を含む）した研究プロジェクトの例は以下のとおり。

BMBF は移住という刺激による社会変遷についての研究プロジェクト「移住と社会変遷（Migration und gesellschaftlicher Wandel）」に 1,200 万ユーロを拠出する予定である。

夏に開始した研究プロジェクト「避難——研究と知識移転、ドイツにおける難民研究」には 70 万ユーロが助成されており、オスナブリュック大学国際移民・異文化研究所（IMIS）およびボン国際軍民転換センター（BICC）によって実施される。難民研究の結果を収集し、地図上で一覧できるように進められている。

7 月に開始した「難民家庭」（GeFam-Studie）は難民の実情に関するデータ基盤の向上を目的としており、ドイツ労働市場・職業研究所（IAB）、連邦移住難民局研究センター（BAMF-FZ）などとともにドイツ経済研



その他のニュース

研究所 (DIW) によって実施される。研究期間は 3 年、5,500 万ユーロが投資される。この調査では、学校教育、職業教育、職業事情および社会参加をテーマとし 2013 年から 2016 年にかけてドイツに避難した未成年の子供がいる約 1,600 世帯に対しアンケートを実施する予定である。

BMBF : <https://www.bmbf.de/de/mehr-forschung-zu-flucht-migration-und-integration-3594.html>
(15 Nov. 2016)

ドイツ大学長会議 (HRK) が著作権法改正の必要性を主張

ドイツ大学長会議 (HRK) のヒップラー会長は、本日ベルリンにおいて「デジタル化が進む時代において、教育と学術研究はそれに耐えうる著作権法を必要としており、研究者や教師らといった著者、彼らのパートナーである出版社も関心を抱いている。多方面が現状維持を主張しているが、それは現実から目をそらすことにほかならない」と述べた。

出版社が将来においても学術出版物の著者のパートナーであり続けるには、従来のビジネスモデルに代わる新しい概念が開発されるべきなのである。

彼は続けて次のように述べている。「デジタル教育やデジタル学習、デジタル出版は現在重大な役割を果たしているが、このイノベーションサイクルはだんだん短くなっている。HRK としては、著作権に関する規定を技術力に適応させるという緊急性ある問題だと認識している。それゆえ、HRK は連邦・州政府による著作権法の根本的な整備と、その過程において教育と学術研究からの要望に耳を傾けることが望ましいと考える。ドイツ著作権法 (UrhG) 52 条 a 項の枠組み合意について満場一致で反対したように、既存の規定は不確実性を生み出す傾向にあることがこの数年明らかである。私は連邦政府に対し、立法化されている期間の終了前までに、時宜に即して教育と学術研究に対する基本的著作権の例外に関する案を発表することを要求する」

HRK の提案

1. 著者は、著作物が使用された際、著作権の例外規定にあたったとしても公平で相応の報酬を受け取るべきである。

2. このような報酬は一括払いで支払われるべきであり、ドイツ著作権法 (UrhG) 52 条 a 項の枠組み合意にあるような細分化して支払われるべきではない。
3. 一般的な教育と学術研究の例外は、出版社が通常作成するライセンスオファーに相対して、優先されるべきである。
4. 教科書は既存の例外規定に明確に含まれるものである。

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/planned-copyright-law-reform-very-welcome-and-urgently-needed-4068/> (17 Nov. 2016)

ドイツ大学長会議 (HRK) はヨーロッパの教育、研究、イノベーション共同社会を要求

ドイツ大学長会議 (HRK) 総会は先週、イノベーション、科学、教育および文化に関する欧州戦略を要求する声明を発表した。ヒップラー会長は、「EU の現在の危機は、新しい政治的思考と行動を要求している」としたうえで、「欧州は不安定な統合過程を支えるための支援を求めている。ビジネスや研究、イノベーションの場だけでなく、特に教育と文化の分野において膨大な量の課題に直面するに違いない。このことは、難民の流入やポピュリスト政党の台頭、イギリスの EU 離脱に関連して起こった欧州における政治的緊張が示している」と述べた。

HRK の研究・キャリア初期研究者担当のリュディガー理事が述べるに、「今まで、欧州の大学はヨーロッパ精神の担い手としての自身の重大性を十分に認識してこなかった。欧州を行き来する学生と研究者たちは、ヨーロッパ統合の生きた見本である。彼らの批判的に思考する能力と他の文化に対処する際のスキルは、未来のヨーロッパ社会の団結にとって非常に重要である。現代の知識ベース社会と研究・教育・イノベーションの知識のトライアングルにおける大学の役割は、等しく極めて重要なものである。それゆえ、我々はヨーロッパ水準にある大学に対してより強い政治的かつ経済的な支援を要求する。我々は、ヨーロッパの教育、研究、イノベーション共同体を必要としている。それは、刺激とヨーロッパ水準の支援をもたらすが、同時に各国、地域、州と文化の多様性を尊重するものである」。欧州委員会内および EU 水

その他のニュース

準、加盟国レベル、ヨーロッパ水準にある国と地域の間での責任が分散すれば、ヨーロッパの標準化を強いるのではなく、代わりに大学の利益のために複雑な政治的過程を克服しそれらを実施するような促進過程の要求へつなぐと HRK は確信している。

HRK は声明において、ヨーロッパの付加価値の再定義と大学と産業の共同研究に対する支援の集中を要求している。HRK はプロジェクトの採択基準が卓越性にあるという原則の保持を強く支持している。また、EU が課している研究結果をあらかじめ見込むような要件の減少を求めている。HRK が指摘していることだが、これは結局のところ研究結果ではなく、大げさな文面付の申請書を推進しているにすぎないのである。

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/hrk-calls-for-european-education-science-and-innovation-community-4059/> (17 Nov. 2016)

エルゼビア社とのライセンス契約交渉が難航

数ヶ月にわたる集中的な交渉の結果、エルゼビア社はドイツ学術機関連盟に対し、学術出版物にアクセスするための全国規模のライセンス契約に関する最初の案を提示した。しかしそれは、目下 40% の売上利益率があるにも関わらず、今後も現状以上のライセンス価格によって契約しようとするもので、ドイツ学術機関連盟の信念からすれば、オープンアクセスの原則とフェアな価格形成に則るものではない。エルゼビア社は、出版物をよりオープンに使用でき、かつ出版実績に基づいた透明性あるビジネスモデルを拒否しているのである。ドイツ学術機関連盟は当該案を拒否し、出版社に対し透明かつ持続性ある提案を行い、交渉の再開を要請している。ほとんど無償で出版社の評判に貢献しているのは研究者たちであるという事実は、ビジネス関係においても考慮されなければならないだろう。

この交渉は「DEAL – 大手学術出版社出版物の全国規模ライセンス契約」プロジェクトの一環であり、このプロジェクトはドイツ大学長会議 (HRK) の提起によりドイツ学術機関連盟が開始したものである。交渉は HRK のヒップラー会長によって進められており、契約の締結は 2017 年 1 月 1 日を目指している。

シュプリングー・ネイチャー社とワイリー社とは 2017 年 1 月に前段階となる会談が実施される。前述の

ビジネスモデルは推奨モデルとして他の出版社にも適用されることが望ましい。

AvH : <https://www.humboldt-foundation.de/web/pressemitteilung-2016-31.html>
(1 Dec 2016)

ドイツ研究振興協会 (DFG) が研究不正行為に対する懲戒事例を発表

ドイツ研究振興協会 (DFG) の協議会は、2016 年 12 月 8 日にボンで行われた会議において、DFG の科学的不正に関する懲戒規定の手続きにのっとり、2 つの懲戒処分を科すことを決定した。いずれの事例においても、協議会は DFG の研究不正行為に関する申し立て委員会の勧告に従った。

最初の事例は、ブレーメン大学で雇用され 2014 年に DFG のハイゼンベルク教授称号を授与された薬理学者メドラー教授による研究不正行為である。彼女の一連の論文に関する研究不正の申し立てがなされ、2015 年 3 月より調査が開始された。当時ブレーメン大学においても不正に関する調査が行われていたため、DFG は調査およびハイゼンベルク教授称号に関連した各手続きを延期し、2016 年 9 月に大学の調査が完了したのち DFG において手続きが再開された。なお、大学ではメドラー氏が繰り返し過失と義務違反を行っていたと学長によって報告された。

DFG の委員会は、この不正データを提示した責任はワーキンググループのリーダー的役割を果たしており論文の著者でもあるメドラー氏にあるとした。委員会の見解では、メドラー氏が個人的に不正データを提示したという証拠はない。むしろ委員会は、メドラー氏のワーキンググループに所属する他の著者がこの図の再利用に対する責任を持っていると結論付けている。しかしながら、委員会はメドラー氏が自身の研究スタッフに対する監督責任を果たさず、共同責任を取らざるを得ない、また DFG の手続き規定に基づく研究不正手続きを行わざるを得ない状況にあるという結論に達した。

DFG の手続き規定に則った適切な措置として、調査委員会は協議会に対し、2014 年にメドラー氏に対し授与したハイゼンベルク教授称号を撤回することを勧告し、協議会はこの勧告に従うことを決定した。

「監督責任や組織の任務遂行能力における誤りや欠如をふまえると、メドラー氏はハイゼンベルク教授称号を

その他のニュース

授与される要件を満たしていない。ハイゼンベルク教授というのは、キャリアにおける節目の称号と認識されており、DFGにより毎年数名のみに授与されるものである。この制度はプロジェクトに対して助成するのではなく、厳格な基準ののち個人に対して授与されるものであり、受賞者が誰であるかということを重要視している。メドラー氏はもはやその要件を満たしておらず、そのため今日ではハイゼンベルク教授称号を授与されるものではない」と、DFGの事務総長であり、また研究不正疑惑に関する調査委員会の委員長でもあるツヴォネク氏はこのように述べた。しかし、委員会はメドラー氏に対し、外部資金への申請資格は引き続き保持されるべきであるとの考えから、資格停止や将来的な制約が検討されることはなかった。

第二の決定として、協議会は他の著者に対し書面にて懲戒処分を行った。今回は、DFGの助成を受けて最近発表された論文のレビューにおいて、過去に発表された研究と同一の数字が論文に含まれていることが問題視された。慎重な調査と本人および彼女のワーキンググループのリーダーと専門家の主張に基づいて、DFGの調査委員会は、提出された不正データが用いられた論文は責任著者として彼女の名前が記載されている事実がある以上、この研究者に責任があるという結論に達した。委員会は、不正データを個人として提示したという証拠は見つけれなかった。しかし、責任著者として誤った図が使用されているということには気付けたはずである。

DFG : http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2016/press_release_no_58/index.html (9 Dec 2016)

ドイツ大学長会議 (HRK) がアクレディテーションに関する連邦協定の合意についてコメント

ドイツ大学長会議 (HRK) のヒップラー会長は、各州文部大臣会議 (KMK) が昨日合意した連邦のアクレディテーション制度の協定について「必要な変化に向け第一歩である」と述べた。2月のドイツ連邦憲法裁判所の決定後、手続きに向けた法的枠組みの再編が必要となった。

ヒップラー会長は「しかしながら、残念なことに KMK はすべての州をこの協定に取り込むことができなかった。したがって、特定の州に対する特別な協定が設けられることが再度予想されるが、これは学术界にとっても学生にとっても有益なことではない」と付け加えた。

「今重要なのは、州で共通したアクレディテーション手続きに関する枠組み規則によって、どのように連邦協定が実施されるか、ということである」と HRK のブルクハルト理事は述べた。「我々は、大学が研究と教育を質の高い自律した方法において整備できるよう、枠組み規則が必要な自由を確保するものであると確信している。細かすぎる規則は相応しくなく、連邦憲法裁判所の決定に反しうるだろう。我々は、常々枠組み規則の設計には学术界が関与することが重要であると考えており、それに向けて建設的に協働する準備が整っている」

HRK : <https://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/hrk-cautions-against-inconsistent-or-overly-detailed-implementation-rules-following-federal-states/> (9 Dec. 2016)

イベント活動報告

フンボルト財団主催ネットワークミーティングに参加

日程：2016年10月5日（水）

場所：フライブルク大学（Universität Freiburg）

参加者：近藤国際協力員

フンボルト財団（AvH）主催により、同財団の奨学生のためのネットワークミーティングがフライブルク大学にて開催された。AvHは、本会の対応機関のひとつであり本会と同様に奨学生を支援している機関であり、同財団の奨学金制度や奨学生に対するサポート等を学ぶため参加した。今回のネットワークミーティングは、同財団から支援を受けて全世界で活躍する研究者のネットワーク構築のためのイベントとして毎年開催されているものである。初日の10月5日は、フライブルク大学長による挨拶とフライブルク大学の紹介の後、AvH事務局長により同財団の様々な奨学金制度について紹介が行われ、引き続いてAvHの奨学生経験者であるフライブルク大学 Fernando Febres Cordero 教授から“Studying Fundamental Particles: The Quest for Precision at High Energies”と題した講演が行われた。講演後は、各奨学生の出身地域ごとのグループに分かれディスカッションが行われ、お互いの情報交換や、奨学金制度に関する質疑応答等が活発に行われた。ドイツ人グループにおいては、今後海外へ派遣される奨学生が、帰国した奨学生からアドバイスを受ける良い機会ともなっていた。



オープニングレクチャーの様子

ドルトムント工科大学キャリアフォーラムに参加

日程：2016年10月6日（木）

場所：ドルトムント工科大学（TU Dortmund）

参加者：Schulze 職員、西村国際協力員



ブースの様子

本センターは2016年10月6日にドルトムント工科大学で行われたポスドク向けイベント“Karriereforum”に参加し、本会の外国人特別研究員事業等についてプロモーション活動を行った。

当日は地域の助成プログラムからEUのグラントまで幅広くプレゼンテーションが行われ、本会もプレゼンテーションを行ったほかブースを設置し、参加者に対し本会事業を広く周知できた。当初日本での研究活動を視野に入れていなかった参加者も、説明後は興味を示し申請方法や資格等について詳細な質問がなされた。

関連 URL：<http://www.tu-dortmund.de/uni/Forschung/Nachwuchs/scn/Karriereforum/index.html>

イベント活動報告

ハノーファー大学においてプロモーション活動を実施

日程：2016年11月11日（金）

場所：ハノーファー大学（Gottfried Wilhelm Leibniz Universität Hannover）

ハノーファー大学において、本会の外国人特別研究員事業をはじめとする国際交流事業の説明会を開催した。博士課程学生からすでに日本との共同研究実績のある教授まで、日本での研究滞在に興味を持つ幅広い層から参加があった。

出口副センター長によるプレゼンテーションの後、活発に質疑応答が交わされ、ドイツの大学に留学している外国人学生からの質問もあった。各種イベントを通じてこうしたプロモーション活動の際、少なからずドイツ国外出身の学生や研究者の参加があり、ドイツの大学の国際性を実感することができる。本イベントを通じて本会事業を推進することで、日本においても学術的な国際交流がさらに活発化されることが期待できる。



当日の様子

第4回ジュニアフォーラムを開催

日時：2016年11月12日（土）

場所：インターシティホテル（ハノーファー）

ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会（German JSPS Club）との共催で第4回ジュニアフォーラムをハノーファーにて開催した。本イベントは、JSPSフェローシッププログラム（外国人特別研究員およびサマープログラム）により日本に滞在した研究者を招待し、シニアと若手の研究者が日本での研究経験とキャリア形成について体験談を語り意見交換すること、さらに、若手研究者の同窓会加入促進を目的としている。

まずは、小平センター長の挨拶に続き、本年度のサマープログラム及び外国人特別研究員（欧米短期）で日本にて研究活動を行った出席者による日本での体験談が発表された。その後、シニア研究者（ハノーファー大学のProf. Dr. Jutta Papenbrock、ケルン大学のProf. Dr. Matthias Pilz）により、過去の日本滞在経験やその経験をどのようにその後の研究活動やキャリアパスに活かしてきたかについての発表が行われた。引き続き、ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会による同窓会活動の紹介と本センターによるJSPSフェローシッププログラムの紹介、更にそれぞれの発表に対する質疑応答や意見交換が行われた。最後に同窓会会長であるProf. Dr. Heinrich Menkhauと小平センター長による閉会のあいさつによって盛況のうちに終了した。

本イベントでは若手研究者から既に教授として活躍しているシニア研究者まで幅広いステージの研究者が集合し、質疑応答時やコーヒーブレイク中に意見交換をすることで今後のキャリア形成や日独交流について考える良い機会となり、有意義なイベントだったとの声が多く寄せられた。



集合写真



JSPSフェローによる発表

イベント活動報告

ライプツィヒ大学においてプロモーション活動を実施

日程：2016年11月21日（月）

場所：ライプツィヒ大学（Universität Leipzig）

参加者：近藤国際協力員

ライプツィヒ大学にて、フェローシッププログラム等 JSPS の事業に関する説明会を開催した。当日は3名と少数の参加ではあったが、日本学専攻以外にも自然科学系の分野を専攻する参加者もいた。各フェローシッププログラムの助成内容や応募資格等の説明の他、日本での生活や日本語の必要性等参加者が少数である分、様々な質問について話をする事ができた。日本学専攻の研究者は周りの研究者にも今回のプロモーションイベントの内容を伝えると申し出てくれたり、また、現在修士課程の学生も参加していたが、将来博士課程に進学することにしたならば非日本での研究を行いたいという学生もおり、今後の応募者増加に繋がる事が期待される。



当日説明を行ったリサーチアカデミーのオフィス

ドレスデン工科大学においてプロモーション活動を実施

日程：2016年11月22日（火）

場所：ドレスデン工科大学（Technische Universität Dresden）

参加者：Schulze 職員、近藤国際協力員

ドレスデン工科大学にて、フェローシッププログラム等 JSPS の事業に関する説明会を開催した。当日は学生から教授まで20名程の参加者があり、フェローシッププログラムをはじめとする JSPS 事業に関する説明に熱心に耳を傾けていた。同イベントは同大国際部が主催しており、参加者募集の告知から当日の進行まできめ細かく対応してくれたこともあり、滞りなく進行した。

質疑応答の時間や休憩時間に、日本の大学についてや日本での生活についての質問等もあり、多くの参加者が日本での研究活動に大変興味を持っていることが感じられた。今回のイベントを通じ、日本での研究活動が具体的にイメージできるようになりフェローシップへの応募を検討するきっかけとなる事が期待される。



プレゼンテーションの様子

ライプニッツ植物遺伝作物学研究所（IPK）主催ミニシンポジウムに参加

日程：2016年11月23日（水）

場所：ライプニッツ植物遺伝作物学研究所（Leibniz-Institut für Pflanzengenetik und Kulturpflanzenforschung）

参加者：Schulze 職員、近藤国際協力員

ライプニッツ植物遺伝作物学研究所（IPK）において、様々な奨学制度等を紹介するミニシンポジウムが開催され、ボン研究連絡センターからシュルツェ現地職員、近藤国際協力員が参加した。同研究所に所属する500人以上の研究者のうちおよそ180名は世界33カ国からの研究者であり※1、当日はドイツ以外にもアジア、アフリカ、中東等様々な国出身の研究者、35名程が参加していた。



イベント活動報告



当日のイベントの様子

本センターによるフェローシッププログラム等 JSPS の事業に関する説明に引き続いて、ドイツ研究機関の共同利用機関である European Liaison Office of the German Research Organisations (KoWi)による欧州研究会議 (ERC) 等のフェローシッププログラムの説明が行われた。

今回のイベントをきっかけに日本におけるフェローシッププログラムを知った参加者もあり、参加資格や制度の詳細についての質問が多く出る等、日本での研究活動を考えるよい機会となった様子であった。

※1 いずれの数値も同研究所ホームページ (<http://www.ipk-gatersleben.de/en/people/>) から引用。

関連 URL <http://www.ipk-gatersleben.de/postdocs/mini-symposium/>

第 22 回日独科学技術協力合同委員会に出席

日程：2016 年 11 月 30 日（水）、12 月 1 日（木）

場所：カメハグランドホテル（ボン）

参加者：小平センター長

ボンにおいて第 22 回日独科学技術協力合同委員会が開催され、当センターから小平センター長が出席した。この委員会には、日本側から中根猛科学技術協力担当大使を共同議長として、内閣府、外務省、文部科学省、経済産業省、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、国立研究開発法人産業技術総合研究所（AIST）、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）等の関係者が参加し、ドイツ側からは連邦教育省、ドイツ研究振興協会（DFG）、ドイツ学術交流会（DAAD）、フンボルト財団（AvH）、マックスプランク研究所、フラウンホーファー研究機構、ライプニッツ協会等から関係者が参加して行われた。

この委員会では、両国の科学イノベーション政策についての最新の情報共有と、蓄電技術、クラスター協力、クリーンエネルギー、サービスロボット等の研究協力における両国による協力の意義の確認、今後の展望に関する議論が行われた。2 日目には、両国の主なファンディング・エージェンシーから日独間のプログラムや交流状況についての発表とそれに基づく意見交換が行われ、総括では今後の両国の更なる協力の強化に対する期待が述べられた。

今後のイベント等

2 月 10 日（金）	日独産業協会主催キャリアフォーラム・ジャパンに参加（デュッセルドルフ）
2 月 23 日（木）	ブリッジフェローシップ審査会（ボン）
3 月 6 日（月）	NRW 州学術関係機関連絡協議会（ボン）
5 月 5 日（金）	サマープログラムプレオリエンテーション（ボン）
5 月 19 日（金）～20 日（土）	日独学術シンポジウム（ウルム）
6 月 9 日（金）	平成 29 年度採用海外特別研究員オリエンテーション（ボン）



センター長コラム

2016 年が終わって 2017 年を迎えた。10 月に西崎さんに代わって出口副センター長が就任し、あっという間にセンター事務を取り仕切って、11 月のハノーファー市での同窓会行事や帰国間もない JSPS フェローたちの集まり「Junior Forum」も盛会裏に終えた。

ボンの大晦日は例によって賑やかな花火の爆竹音の響きで真夜中を迎えたが、ベルリン中心地で 19 日に起こったテロ事件で落ち着かず、ガウク大統領やメルケル首相の 2016 年を回顧する談話や 2017 年新春の辞も、抑えたトーンにならざるを得なかった。大統領の言葉だったか、「闇をもって闇を葬ることはできない。光のみが闇を駆逐することができる」。

テロ事件直後には職員の安否を本部に速報し、デュッセルドルフ総領事館から出される危険情報速報を職員に周知した。クリスマス祭日も過ぎた 27 日には安倍首相がオバマ大統領とパールハーバーのアリゾナ記念塔を訪れて戦没者を慰霊し、「憎しみよりも和解の力の強い」ことを誓った。「闇と光」、「憎悪と和解」、2017 年が少しでも、これら対語の后者に与してくれることを祈った年明けであった。ボンの元旦は「お正月」に相応しいお天気だったが、翌早朝に雪が降って、2 日は一変して白一色の雪景色となった。

ヨーロッパでは昨年の各地でのテロ事件やトルコのクーデター、それに続くエルドアン政権の強硬策、英国の EU 離脱国民投票、東欧諸国の民族主義的ポピュリズムの保守回帰傾向と、ロシアの動向も含め、不安定要素が強まっている。ドイツもその波はまぬがれず、難民受け入れ問題が次期政権の大きな課題となっている。今年がドイツ連邦の大統領と首相の選出年に当たっていて、政局の話題は尽きない。アメリカもそうだが、既存の政治体制に飽き足らずに変化を求める民衆の潮流が、ソーシャル・ネットの全盛と重なって政治を動かす、新たな民主主義の時代になりつつあることを感じさせる、ボン生活の昨今である。

日本では「スーパーグローバル大学」プログラムが始まって 34 大学が選ばれた。研究力を含め国際通用性の高い人間を育てるのが「グローバル大学」だと解するとして、「スーパーグローバル」というキャッチ・コピーから何を連想すればよいだろうか。人間育成に於いて「世界に冠たる」という意味合いであろうか。

日本は島国のせいもあって、ヨーロッパの不安定な状況からは、まだ隔離され守られている部分が多いように見える。日本の良いところを守り活かすグローバル化の道を探るのは簡単ではないだろう。グローバル化をモットーに掲げて日本本来の良さを失い、いたずらに国際化したところで「世界に冠たる」と誇れはしないだろう。スーパーグローバル大学にとっては、日本の特色を出しながら、多様性・複雑性に富んだ課題に果敢に取り組める能力を備えた人間を育てていくことが肝要なのかもしれない。

(小平桂一・ウィーン交響楽団ニューイヤー・コンサート TV 再放映を前に、2017 年 1 月 7 日)



ドイツの大学紹介：ドレスデン工科大学

旧東ドイツに位置するドレスデン工科大学は、ザクセン州最大の大学、かつ、ドイツでもきわめて古い工科大学であり、1961年からドレスデン工科大学と称している。1828年に技術者を養成するために設立され、ドイツ帝国が設立された1871年に歴史や言語学等、科学技術系以外の学部が導入された。つまり、同大は工科大学といっても人文社会系や医学部等を含む14の学部を擁する総合大学である。大学の規模は極めて大きく、2015年12月1日時点で1年生8,474人を含む35,961人の学生（うち13.4%にあたる4,827人の学生は海外125カ国からの留学生）がこの歴史あるドイツを代表する大学で勉学に励んでいる（※）。



緑あふれる憩いの場が設けられている生物学の校舎

また同大は、第二期エクセレンス・イニシアティブにおいて、いわゆる「エリート大学」に選出された11大学のうちの一つでもある。外部資金獲得率も高く、2014年は243百万ユーロ（※）の外部資金を獲得している。

広大な敷地のキャンパスには、各学部の建物が独特の雰囲気を持している。生物学の建物は1階に緑あふれる憩いの場を設けており、会議のレセプションにも利用されているようだ。

※ いずれも同大ホームページ（<https://tu-dresden.de/tu-dresden/profil/zahlen-und-fakten>）で公表されている数値から引用。

国際協力員コラム

ドイツと聞いて思い浮かべるものの中にサッカーをあげる人は少なくないと思います。2016年のヨーロッパ選手権では惜しくも開催国フランスに準決勝で敗退しましたが、2014年のワールドカップでは24年ぶり4回目の優勝を果たし、国内リーグであるブンデスリーガも盛んです。ボンの周辺でもいくつものチームがしのぎを削り、特にボルシア・ドルトムントはサポーターが熱狂的なことでも有名です。同じルール地方にホームを置くシャルケ04とのルールダービー、そして強豪対バイエルン・ミュンヘン戦では、8万人以上収容可能なホームスタジアムであるジグナル・イドゥナ・パークがチームカラーの黄色と黒で埋め尽くされ、凄まじい歓声・応援・ブーイングで隣の人の声も聞こえないほど。観戦のおともはもちろんビールとソーセージ。大きなビールカップを6つもぶら下げて歩く人を見ては、ビールの消費量も同じく凄まじいのだろうと思わず想像してしまいました。



ジグナル・イドゥナ・パーク

(西村国際協力員)

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office
Wissenschaftszentrum
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)
Tel. +49(0)228-375050
Fax +49(0)228-957777
www.jsps-bonn.de